

重点施策点検・評価表

2-1-1

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の展開
重点施策	
1	ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める。 担当課(館)
① 大館の未来を切り拓くための総合的人間力(「人間的基礎力」「大館市民基礎力」「大館市民実践力」)の育成 学校教育課 教育研究所	
活動内容	第8次学力向上対策5カ年(平成26年～平成30年)3年目である。中間評価の成果を踏まえつつ、実践をさらに進める。保護者を含めた市民へふるさとキャリア教育の理念や各校の百花繚乱作戦を情報発信し、浸透させる。
点検評価	<p>■目標を上回る □目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95～100%) (80～94%) (80%未満)</p> <p>中間評価を意識して各校、各専門部が取り組み、それをおおだて型学力推進便り「SHINK A」にまとめ、全職員で成果と課題を共有した。他者からの評価として、外部評価者3名による授業参観等で、学び合いを核とする授業スタイル、児童生徒の学びに向かう姿勢には高い評価を得るとともに、課題も指摘していただいた。 また、他県からの視察者からも評価をしてもらい、本市の教育の特徴や強みを明らかにすることができた。特に、8月に行われた博報教育ワークショップでは、全国からの参加者と本市の教育をテーマに協議し、その結果を市内の教職員に発表し、還元することができた。</p>
課題等	<p>各校の百花繚乱作戦が充実し、それぞれの活動が地域を巻き込み、その様子や成果が新聞等でも紹介されている。今後は、経済教育を導入し、新たな視点を持ちながら進める一方、市民や企業もふるさとキャリア教育を通して成長していく体制を構築する。</p> <p style="text-align: right;">取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度</p>
学識経験者等の意見	経済教育など新たな取組が増えるが、ふるさとキャリア教育で生じた課題を次につなげるものであり、何のためにやるのか原点を押さえることが大事である。視察等外の目からの評価は客観的評価として意味がある。
② 体力の向上と食育の推進 学校教育課	
活動内容	安心安全な学校給食と食育の推進、食物アレルギーへの対策を充実させるため、食物アレルギー対応検討委員会を立ち上げる。
点検評価	<p>■目標を上回る □目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95～100%) (80～94%) (80%未満)</p> <p>学校給食委員会、食中毒予防研修会に加え、新たに「食物アレルギー対応検討委員会」(6/21)を県内初で立ち上げた。食物アレルギーをもっている小学生148人、中学生79人(エピペン保持者8名含)について、医師や養護教諭等関係者からなる委員に対応を検討いただき、適切な対応ができるように体制を整えた。 学校給食委員会では、給食費の値上げ、食物アレルギー対応マニュアルの改訂のため臨時委員会を含め3回実施して、調査や協議を十分に行った。</p>
課題等	<p>給食数の減少と栄養士の確保のため、長木調理場を廃止し、北地区給食センターへの統合を進める。アレルギー対応については、昨年度改訂した「食物アレルギー対応マニュアル」の周知、活用を図っていく。</p> <p style="text-align: right;">取組の方向性 ■ 継続 □ 廃止検討 □ 単年度</p>
学識経験者等の意見	教育委員会として食物アレルギーをもっている児童生徒が正確に把握されており、対応委員会で精査もされていることを高く評価したい。給食の安全な提供、栄養素の確実な摂取等、今後も適切な運営を継続させてほしい。

重点施策点検・評価表

2-1-2

基本目標		
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の展開	
重点施策		
1	ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める。	担当課(館)
	③ いじめ・不登校対策事業	教育研究所
	活動内容	いじめ防止基本法を浸透させる取組、いじめ・不登校調査の実施、関係機関との連携により、未然防止と早期対応をする。
	点検評価	<p>□目標を上回る ■目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)</p> <p>「いじめ防止基本法」は、市の指導の重点に掲載するとともに、各校の経営計画にも明示している。市では年3回のいじめ調査を実施し、1回目には「いじめを受けたことがある」は小中では339件であり、子どもからの自己申告をすべてカウントしている。3回目の2月末には57件に減っているが、指導を指示し、3月末で継続指導は5件である。日頃からスクールカウンセラーや少年相談センター、福祉部子ども課、北教育事務所のスクールソーシャルワーカーを活用し、必要に応じて警察にも入ってもらい、ケース会議を開催している。市教委と学校と関係機関が情報共有をする会が定期的に開かれている。</p> <p>不登校については、毎月の10日以上欠席調査を行いながら、実態把握している。おおとり教室とスペース・イオと関係機関のネットワークにより、中学3年生の不登校生徒全員が進学することができた。</p>
	課題等	<p>中学生の不登校は横ばいであるが、小学校の不登校が倍増している。早期対応の意識を徹底していく。</p> <p>取組の方向性</p> <p>■ 継続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
	学識経験者等の意見	社会には「いじめは悪である」という認識があるからこそ、隠ぺい傾向となりがち。本市の場合には「よく調べたから認知件数が増えている」と捉え、学校現場にも件数が多く出てきたら「よく調べてくれた」と声をかけることが、今後も隠さず報告することにつながる。不登校の背景の共通項として、親子関係も潜んでいることから、様々な相談機関で門戸を広くして相談を受け入れるのは大事なことである。
	④ 全教職員と関係機関のネットワークで支援する特別支援教育の推進	学校教育課 教育研究所
	活動内容	子ども課やスクールカウンセラーとの連携により、障害のある子どもへの合理的配慮、基礎的環境整備を推進する。
	点検評価	<p>□目標を上回る ■目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)</p> <p>市として、就学指導委員会を教育支援委員会に改称し、特別支援学級への審査だけでなく、現状の確認や必要とする支援についても丁寧に協議した。特別支援教育に関する関係機関が、情報共有と支援の分担をするインクルネットを月1回開催しており、連携した支援もできている。特別支援教育支援員の名称も教育支援員とし、市財源で50名を配置した。</p> <p>就学教育相談は子ども課と共催して年4回実施するほか、随時、スクールカウンセラーや就学支援員が保護者の相談に応じる体制も定着している。</p>
	課題等	<p>適正就学が進むことで、特別支援学級の人数が増え、指導に困難を抱える学校も出てきている。通級指導教室のニーズも高まっているが、実際に受け入れる人数が限られており十分ではない。</p> <p>教育支援員を必要とする児童生徒が年々増加し、300名を越えているが、教育支援員の増員は難しい状況にある。</p> <p>取組の方向性</p> <p>■ 継続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
学識経験者等の意見	「教育支援」という名称へ変更したところに、市教育委員会の意思が感じられ、適切である。子どもにとっての環境整備に務めることで、保護者の理解が進み、子どもが安心して学校に行ける。将来を見据えた教育は大事である。また、教育支援員の存在で、学級担任も存分に力が発揮できている。これは、周りの子どもにとってもプラスになっている。	

重点施策点検・評価表

2-2

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の展開
重点施策	
2	学校を核として、各地域にスクール・コミュニティーの形成を図る。
	担当課(館)
	① ふるさとキャリア教育を根幹とした特色ある学校経営の展開
	学校教育課 教育研究所
活動内容	ふるさとキャリア教育夢事業を活用して、各校の百花繚乱作戦をより充実・発展させ、地域全体を巻き込んだ教育活動にしていく。地域の学習材等の教育資源を活用した授業や起業体験活動の開発を支援する体制を構築する。
点検評価	<p>■目標を上回る □目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)</p> <p>県教育委員会の「起業体験推進事業」を6小・中学校が実施し、小学校は6次産業化に取り組み、きりたんぼまつりで販売をした。中学生は起業家精神を学ぶ講演会や親子ふるさとキャリア教育セミナーを開催するなどして、それぞれに成果を得るとともに、モデル市として他市町村にも実践を周知する役割が果たせた。 ふるさとキャリア教育推進会議を年2回開催し、商工会議所や青年会議所等から専門的な助言や支援を得て、各校の活動がレベルアップした。</p>
課題等	<p>地域の学習材を活用した単元、授業づくりを表彰するふるさと授業賞への応募が少なかった。来年度の道徳の教科化に向けて、ふるさと単元の開発を小・中学校へ働きかける。</p> <p>取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>
学識経験者等の意見	スクール・コミュニティーという発想がすばらしい。ふるさとキャリア教育は全国に誇れる本市の教育理念である。子どもの成長を通して大人が教育に参画し、それが地域の活力を醸成している。大館の子どもたちは、本当に挨拶がよい。大人の方が子どもの背中を見て、町内でも挨拶が広がっている。
	② 学校評価の充実による学校運営の改善と情報の積極的な提供
	学校教育課
活動内容	校長会と連携し、大館市が目指すふるさとキャリア教育の方向と合致したものにす。人事評価との連動により、職員の経営参画意識を高め、学校経営の充実につなげる。
点検評価	<p>□目標を上回る ■目標どおり □目標をやや下回る □目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)</p> <p>校長会において、学校評価一覧表を見直し、全小・中学校が、ふるさとキャリア教育が見える様式で取り組んだ。 評価指標の1つにふるさとキャリア教育を入れており、外部からの評価を得て、学校経営に生かしている。その結果は、各校のホームページに前期と後期に公表している。</p>
課題等	<p>学校関係者評価委員からは、評価書が難しく分かりづらいという声もいただいている。年々、内容が多くなっており、市民や保護者に分かりやすいまとめ方、表し方を工夫する必要がある。今後、評価項目、内容を精選していくことも検討したい。</p> <p>取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>
学識経験者等の意見	評価者にとって、評価書は情報量が多く、読み取りに時間がかかる。たくさんのデータも載っているが、分析までやりきれないのが実状。評価内容を分かりやすくする工夫は必要かと思う。保護者のヒヤリングも、時間をさいて出席してもらいながら、話すのは8分程度というのも、見直しが必要かもしれない。形式にとらわれず、思い切ってわかりやすくしてみてもどうか。

重点施策点検・評価表

2-3

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の展開		
重点施策			
3	「おおだて型学力」の向上を目指し、実践的指導力を養成する教職員研修を実施する。		担当課(館)
	① 「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を鍛えるための授業改善		学校教育課 教育研究所
	活動内容	授業改善に向けた研修会を充実するとともに、学校訪問による適切な指導・助言を行う。	
	点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)	
	課題等	おおだて型学力を育成する授業のモデル的取組が見られるようになったので、その取組を他校にも参観してもらうことで、全校が自校なりの授業スタイルを確立できるよう支援していく。 特に、授業マイスターや教育専門監等を活用して、師範となる授業を多くの教員に広める機会をもつとともに、教育研究所が独自に授業支援を実施する。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	「目標を上回る」の評価は適切。授業改善の3つの柱は実態に応じた進め方をしてよい。ただ、「学び合い」が中心になると思うが、子ども達には様々な学習スタイルを好む個人差があることも念頭において進めてほしい。	
	② 幼保小中高大のさらなる連携及び地域社会、産業界との連携の推進		学校教育課 教育研究所
	活動内容	現在行っている教育懇談会を充実させ、縦の一貫性をより強める。子どもハローワーク等で、職場体験、地域ボランティア、地域行事への参加を推進し、「学社融合」をより促進することにより、地域を活性化する新たなエネルギーを生み出す。「人間的基礎力」を確かに身に付けるため、就学前教育と小学校低学年の連携を強化し、系統的に育成する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)	
	課題等	就学前教育と小学校教育の接続に関する研究を進める予定である。その後、市としての接続期の在り方をリーフレットとして作成する。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	地域に門戸を開いている大学が本市には2校もあり、恵まれた環境にある。教育懇談会をすることで、互いに顔が見え距離が縮まる。大変よい方向性でやられている。		

重点施策点検・評価表

2-4

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の展開
重点施策	
4	IT機器の導入など、時代に即した教育環境の整備に努める。
	担当課(館)
	① 情報化・国際化、インクルーシブ教育システム等に対応する人的・物的環境の整備
	学校教育課 教育研究所
活動内容	タブレットPCや電子黒板を今年度は中学校に整備する。ALTや外国語活動支援員の有効活用を図り、教員の資質向上と児童生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。 特別な支援を必要とする児童生徒への教材・教具等については、教育研究所の教材センターの活用を促進する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) タブレットPCや電子黒板が中学校に整備となり、全小・中学校にIT環境が整った。活用についても、上川沿小学校が先進事例として授業公開や実践発表をして周知した。特別支援教育では合理的配慮、基礎的環境整備のため衝立やタイムタイマー、教材等をスクールカウンセラーのアドバイスにより必要に応じて各校に貸し出した。
課題等	今年度から次期学習指導要領の実施を見据え、小学校英語の教科化、外国語活動の前倒し、道徳の教科化、プログラミング教育の導入などに対応できるカリキュラム作成や教材開発に取り組む。
	取組の方向性
	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	小学校の英語教育スタートに当たり、本物に馴染ませる環境づくりが重要である。市としてのプランを示すことで、共通したやり方を人が変わっても同じように指導ができることが望ましい。先生方が「やらなければ」と思えるアプローチを市として考えてほしい。
	② 安心・安全で、児童生徒の個性や特性が発揮できる学びの場づくり
	学校教育課 教育研究所
活動内容	第2次学校教育環境適正化委員会を立ち上げ、統合について基本方針を検討する。北陽中学校については、今後の統合に向けてモデル的役割を果たすと考えられることから、支援を継続していく。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input checked="" type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 第2次学校教育環境適正化計画は、花矢地区の住民感情も考慮して、一時休止とした。北陽中学校は開校2年目も、財政的なバックアップを継続することができた。北陽中学生の学習、生活は安定し、様々な面で成果を発揮しており、学区住民からも評価されている。また、花岡・矢立・釈迦内各地区の防災活動、ボランティア、地域行事に積極的に参加していることから、地域からも頼りにされ喜ばれている。
課題等	平成29年度は、第2次学校環境適正計画を検討する委員会を立ち上げ、市としての方向性をまとめる。今年度は委員の選定、委員会の開催、情報収集に取り組み、平成30年度内には市としての素案を作成する。
	取組の方向性
	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	矢立公民館がよい形で活用され、地域からも喜ばれている。北陽中も橋や道路も整備してよい支援ができています。住民と保護者の両方の同意を得るのは難しいことですが、統合してよい学校ができたという評価が次につながる。難しい問題ですが、色々な人の知恵を借りて方向性を作ることで説得力のある素案をつくってほしい。